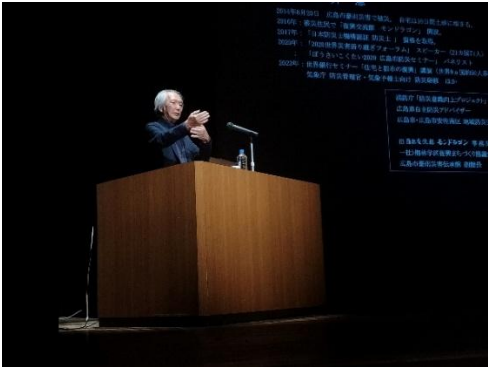


開催地名	奈良県 生駒市
開催日時	令和6年10月20日(日)10:00~11:30
開催場所	コミュニティセンター 1階 文化ホール
語り部	松井 憲(広島県広島市安佐南区)
参加者	100名
開催経緯	生駒市では大規模な災害を経験しておらず、各地域で防災意識に対してバラつきがあるため、各地域の防災意識の醸成と災害対応力の底上げを図る必要がある。また、地域の自主防災活動や災害対応の指針となる地区防災計画の策定が進んでいない背景から、今回の開催に至った。
内容	■ はじめに 広島市豪雨災害の被災者である松井講師は、災害発生から4年後に復興プランを策定し、広島市に約50の提案を行った。その中には、被災者の心のケアを目的とした施設の設立が含まれており、その提案が実現し、昨年9月に「広島市豪雨災害伝承館」が開館した。伝承館では、災害の教訓を伝えるためのビデオ上映や防災教育の活動が行われている。 ■ 広島豪雨災害の被災体験と心情 講演では、広島豪雨災害の概要とともに、被災者が体験した過酷な状況が詳細に語られた。自宅が土砂に埋もれ、家族で必死に避難した様子や、その後の捜索活動の苦労、精神的なダメージからの回復の過程など、具体的な経験が共有された。 また、西日本豪雨災害で犠牲となった家族の話も紹介され、災害がもたらす心の傷の深さについて触れられた。これらの実体験を通じて、災害への備えだけでなく、被災後の心理的ケアの重要性が強調された。 ■ 防災リーダーへの提案と意見交換 松井講師は、防災リーダーが地域の防災意識を高め、防災力を向上させるために取り組むべき具体的な方法を提案し、参加者との意見交換を行った。 防災リーダーの役割と具体的な取り組み ・防災教室の開催 地域住民の防災意識向上のため、定期的な防災教室を開くことが重要である。実際の災害事例をもとに、防災知識や対策を学ぶ機会を提供することで、災害時の行動につなげる。 ・近隣地域の防災リーダーとの連携 近隣の防災リーダーと情報を共有し、協力体制を強化することで、災害発生時の対応を円滑に進めることができる。特に、災害時の役割分担を事前に決めておくことが有効である。 ・避難訓練の工夫 避難所への移動だけでなく、到着後の活動も含めた訓練を行うことで、より実践的な訓練となる。例えば、避難所での物資配布や炊き出し、衛生管理のシミュレーションを取り入れると、実際の避難生活への備えが充実する。 ・ハザードマップの活用 定期的にハザードマップを確認し、自宅や日常的に訪れる場所の災害リスクを把握することが重要である。家族や地域の住民と情報を共有し、災害時の行動計画を立てる必要がある。 ・家族での防災対策 家族で役割を決めておくことで、災害発生時に迅速に対応できる。例えば、誰が非常持ち出し袋を持ち出すか、どこに集合するかなど、具体的なルールを決めておくことが重要である。 ・車による避難の活用 特に大規模災害時には、避難所が密集することを避けるため、車での避難を推奨する。車内での避難生活を可能にするために、事前に備蓄や車内設備を整えておくことが良い。 ■ 新しい避難所の考え方と家族での防災対策 近年の感染症対策を踏まえ、新しい避難所のあり方についても紹介された。分散避難の推進や車内避難の活用が提案され、災害時におけるリスクを最小限に抑えるための方策が示された。また、家族単位での防災計画を作成し、災害時に各自が何をすべきかを明確にしておくことの重要性が強調された。これにより、家族の安全を確保しつつ、迅速な避難が可能となる。

	■ まとめ 広島市豪雨災害の経験から学ぶべき教訓として、単なる防災対策の強化だけでなく、被災者の心のケアや地域の防災力向上が欠かせないことが示された。防災リーダーは、地域住民と協力しながら、防災教育の普及や避難訓練の充実を図ることで、災害時の被害を最小限に抑えることが求められる。 また、新しい避難所のあり方や家族単位での防災対策を実践することで、感染症や災害時の混乱を軽減することができる。今後も地域ぐるみで防災意識向上が不可欠であり、そのための継続的な取り組みが求められる。  
開催地より	当日はご自身の被災体験談や防災に関する知見をお話しいただきました。講演を受け、各地域の近隣同士の自主防災会、防災リーダーの繋がりの強化が特に必要だと感じました。今後も避難所単位での訓練・防災リーダーへの研修などを通して繋がりを強化していきたい。